

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	0 1 7 5 8 0 0 3 2 5		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム あかるい家		
所在地	夕張郡由仁町東栄 1 6 - 1 8 (電話) 0 1 2 3 - 8 3 - 4 0 8 0		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南 3 条東 2 丁目 1		
訪問調査日	平成20年12月24日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】 (平成 2 0 年 1 2 月 1 8 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 1 5 年 1 0 月 2 8 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 2人, 非常勤 11人,	常勤換算5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造鋼板葺き 造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 12,000円 暖房費(12-3月): 5,000円	
敷金	有 () 円	無 () 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	無 () 円	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要 (1 2 月 1 8 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護 1	0 名	要介護 2	3 名			
要介護 3	5 名	要介護 4	1 名			
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名			
年齢	平均	85.7 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	由仁町立病院	牧野内科	鳥山歯科医院
---------	--------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム あかるい家」は、JR由仁駅から徒歩で10分ほどの住宅地に位置し、ホーム裏には農地が広がる豊かな環境にある。隣町の介護事業所を運営している運営者は由仁町の入居へのニーズに応え、現在地に平屋建ての1ユニットを新築し5年が経過している。町の地域担当の保健師や居宅介護支援事業所のケアマネジャーと連携を密にして入居を受け入れるように努めている。運営者は家庭のように過ごす環境を大切にし、小鳥や犬を飼い利用者が動物と触れ合う癒しの場を提供している。管理者と職員は利用者が安心して暮らす対応に力を注ぎ、本人のこだわり、生活習慣を見守り、それぞれのペースに寄り添い、温かいゆったりした対応を心掛けている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価で指摘のあった介護計画は、個人の情報を収集し記録で情報を共有されている。しかし、カンファレンスは当日の勤務者間で行われているので、全員の意見を出し合うなど、さらなる取り組みが期待される。研修は機会を見ては積極的に進めている段階である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は運営者と管理者で話し合い、まとめたものを職員に閲覧したが特に意見などはなかった。まとめるにあたり、管理者は一部の職員に意見を聞いているが、全職員には浸透はされていない。次回に向けて全員で取り組む方法を考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、ホームの行事に合わせて、年2回実施している。運営状況、ホーム内の視察、収穫祭などの行事について報告しているが、会議の回数や議題については今後の課題と考えている。年間計画を立てる中で議題を取り上げ、また、今回の自己評価、外部評価の結果も議題に載せ、委員の意見を運営に反映する方向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、請求書の送付時に個人の近況を伝える手紙を添えている。また、家族の来訪が頻繁にあるので、受診の内容や普段の暮らしを報告している。ホームの暮らしを良くしていくためにも家族の意見を第一に捉え、来訪のたびに意見がないかを尋ねるようにしている。家族は気楽に相談してくれるので、改善できることは早急に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が散歩中に座れるように、町内会ではホームの近辺にベンチを設置するなどの配慮もある。利用者は町の「むかで祭り」に参加し、踊る獅子舞を観たり、小学校の運動会に出かけたりしている。ホームの「収穫祭」には、裏の畑で採れた野菜で豚汁を作り、町職員、地域の人々に振る舞い、近所の人や子供との交流になった。隣の元美容師が子供を連れて毎月ボランティアで利用者の散髪の協力があり、利用者は心待ちにしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が経営している他事業所との共通理念を事業所の理念としている。ゆったりと、楽しい暮らしを支えるという、この共通理念を法人の方針として、事業所独自の理念を検討中である。	○	理念を見直すにあたり、職員全員で話し合い、また、運営推進会議の意見も参考にして、地域住民との関わりを盛り込んだ事業所独自の理念を作ることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間に掲げられ、パンフレットにも載せて周知されている。職員は会議や業務で対応を確認し、迷った時には理念に立ち返り行動の指針としている。職員を採用する時は理念を伝えている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が散歩中に座れるように、町内会ではホームの近辺にベンチを設置するなどの配慮もある。利用者は町の「むかで祭り」に参加する、他の祭りの獅子舞を観る、小学校の運動会に出かけるなどしている。ホームの「収穫祭」には、裏の畑で採れた野菜で豚汁を作り、町職員、地域の人々に振る舞い、近所の人や子供との交流になった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は運営者と管理者で話し合い、まとめたものを職員に閲覧したが特に意見などはなかった。まとめるにあたり、管理者は一部の職員に意見を聞いているが、全職員には浸透はされていない。	○	自己評価は職員の業務を振り返る研修の機会にもなるので、一人ひとりが記入したものをまとめ、会議の中で時間をかけて話し合うなど、取り組みの工夫に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームの行事に合わせ、年2回実施している。運営状況、ホーム内の視察、収穫祭などの行事について報告しているが、会議の回数や議題については今後の課題と考えている。	○	年間計画の中で議題を取り上げ、議事録などの整備で職員も情報を共有できるような取り組みに期待したい。また、今回の自己評価、外部評価の結果も議題に載せ、委員の意見を運営に活かすことも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な時には町役場に出かけ、事務的なことはメールや電話で報告している。運営者は町の地域ケア会議に毎月参画し、意見交換の場になっている。不定期に空知支庁生活保護課の担当の来訪と、年に1回は町の福祉課担当の来訪があり情報交換などを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りは発行していないが、請求書を送る時に個人の近況を伝える手紙を添えている。また、家族の来訪が頻繁にあるので、受診の内容や普段の暮らしを報告している。現在、新たな紙面づくりを工夫しホーム便りの発行を準備中である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置していない。ホームの暮らしを良くしていくためにも家族の意見を第一に捉え、来訪のたびに意見がないかを尋ねるようにしている。家族は気楽に相談してくれるので、改善できることは早急に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の事情などで異動はあるが馴染みの関係には配慮している。役職職員の辞職は便りで報告している。非常勤の職員が多く、常に出入りがあるので利用者は意識することはあまりない。職員は辞める時も「行ってきます」と挨拶をして寂しくないように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は医療的な知識やケア、また、認知症実践者研修等に段階に応じて参加を勧め、業務に必要な研修の費用は負担している。資格取得に向けても働きながら学べるように配慮し、職員は自主的に、岩見沢や札幌で行われる研修に参加している。それらの内容を口頭で伝え職員の間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌の「民間介護事業者協議会」には、職員も研修や交流会に参加し情報を交換している。来年は、旭川にある2ヶ所の事業所を見学の予定である。近隣にある他グループホームの利用者が、ホームの犬を見に来ることもあり、双方の散歩中に会う時は会話を楽しんでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族の見学を勧め、体験入居した例もある。町の地域担当である保健師からの依頼が多く、家族の対応が難しい場合等は直接入居することもある。情報をもとに職員は本人の拘りや生活習慣をありのまま受け止め、食事、おやつ、レクリエーションなどで徐々に馴染んで貰うよう関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物、煮物など料理のコツを利用者から教わっている。また、職員の健康を気遣う言葉や、朝から待っている利用者の笑顔に、職員は元気を貰っている。おやつや入浴時には昔話、苦労話などを聞きながら一緒にゆったり過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にならない寂しい思いも汲み取り、その人が表わす言動に注意している。花が見たい時には散歩に出かけ、大好きな食べ物を献立に入れるなど、普段の生活で叶えられるようにしている。病気からくる発作などの徴候に注意し、事前に対応し不安を少なくしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が本人、家族の意向や医療情報を収集し、当日に勤務している職員とでカンファレンスを行って作成している。介護計画は、利用者への説明を優先し家族には、来訪時に説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的な見直しをしている。申し送り、個人日誌、夜勤記録などを基に介護支援専門員が職員に意見を求め、カンファレンスにて意見の調整をしている。定期的見直し以外には、入退院時や骨折などによる心身状態の変化に応じて介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の車を使って本人や家族の希望に応じて、医療機関や図書館、床屋、栗山祭りなどへの送迎サービスを行っている。また、家族が宿泊することもあり、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続受診している。家族に電話連絡し、家族が指定する病院へ通院介助を行うこともあり、その際は利用者の病状について医師に説明をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として看取りを行うことをサービス利用契約時に、本人、家族に説明をしている。現在、退院後の利用者の看取りを行っているところである。重度化や終末期における事業所の方針については、書面ではなく口頭での説明に留まっている。	○	重度化や終末期に向けた事業所の方針を文書にまとめ、本人、家族がどのような終末期のあり方を望んでいるのかについて書面にて確認することができるよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りで敬語や丁寧語を使うよう言葉使いに注意し、話し合いを行っている。排泄の失敗がある場合は、本人や他の利用者に配慮しつつ浴室に移動し、身体の清潔への介助を行っている。個人情報などの記録類は事務所で保管し、面会簿は職員が記入している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間は、一人ひとりの起床時間に合わせている。食後は、居室の掃除や体操、散歩、午後からは入浴や通院、ゲーム遊びなどをして過ごしているが、無理強いするのではなく個別の希望に沿って対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の別事業所に勤務している管理栄養士が利用者の希望を取り入れ、献立を作成している。1週間前に献立が分かるので、職員と利用者が1日分の食材の買物に出かけている。もやしの根取り、とうきびの皮むき、食器拭きなどを個別に支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除いて毎日、午後から入浴をしている。一人週2回を目標としているが、本人の希望や体調に応じて入浴日を変更している。拒否がある場合は、「お姉さんとちょっといい所に行きませんか?」と言葉を掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暦をめくる、自室の掃除をする、新聞を読む、豆を選び分ける、カラオケを唄う、事業所で飼っている犬や鳥と遊ぶなど一人ひとりの力に応じた役割や楽しみごとの支援をしている。利用者が小鳥に「私の全財産をあげる」と話しかけている場面もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、事業所の近辺を20分ほどかけて散歩をしている。天候や体調に応じて遠回りのコースを40分ほど歩くこともある。散歩をしている利用者の姿を見て、地域の人々が自主的にベンチを設置したという経緯があり、休憩用に活用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をしていない。玄関にセンサーを設置し出入りを把握している。利用者が一人で外出をする時は、一緒に出かけて見守りをしている。また、近隣に事業所を訪問しているボランティアが居住しており、協力を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に、消火器の使用法や利用者参加の避難訓練を行っている。また、夜間を想定した避難訓練を実施し、運営推進会議の議題に取り上げ、地域の人々の協力を得ている。火事や災害時の避難マニュアルや役割分担、連絡網は作成していない。	○	平時に火事や災害時の避難マニュアルや役割分担、連絡網を作成しておくことで、災害時の態勢を整えることができるよう、期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個別ノートに毎食の摂取量を記録している。水分量は、1日の食事以外に500mlを目標とし、スポーツ飲料やお茶などを用意している。1日に必要な水分量については、記録はしていない。	○	食事量、水分量の一覧表を作成し、記録することで過不足に関する情報を共有することができるよう、期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居間に入ると小鳥のさえずりに迎えられる。台所のカウンターの前に2つの食卓テーブルと居間にはソファを用意している。脱衣所の窓を開けると事業所で飼っている犬が顔を出し、利用者から可愛がられている。クリスマスツリーを飾るなどして季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、ロッカー、カーテン、ストーブ、暖簾は事業所の備え付けとなっている。入居時には、家族と話し合い、使い慣れた食器や寝具類を持ってきている。夫の仏壇に毎朝、お供え物をしたり、家族の写真を飾るなど本人らしい居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。